

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.220 2019.1.1

明けましておめでとうございます

本年もよろしく願いいたします

平成 31 年 (2019) は、松本高等学校が開校して
100 年の節目の年になります。

今年も学都松本をめざし、芸術文化の拠点として、
市民のみなさんに親しまれるよう歩んでいきます。

松本高等学校校舎 (大正 11 年発行『落成記念帖』より)



もくじ

- 博物館ノートから ◇ 特別展「信濃の国と浅井冽」を終えて……………2
◇ 松本高等学校開校100年について……………3
博物館TOPICS ◇ あめ市歴史展示「絵図にみるあめ市」……………3
ガイドコーナー ◇ はんでんぼく……………4

1月3日は市立博物館へ行こう！

【開館時間】午前10時～午後3時30分

松本市立博物館を無料開館します。当日は博物館
友の会による松本だるまなどの縁起物や七福神と
干支ピンバッジの販売を行います。

特別展「信濃の国と浅井洌」を終えて

県歌制定 50 周年記念特別展「信濃の国と浅井洌」が、11 月 25 日（日）に終了しました。本特別展は松本市立博物館と重要文化財旧開智学校校舎の 2 会場で、“「信濃の国」はどのように作詞されたか”というテーマのもと、当館では浅井洌の学びに、旧開智学校では「信濃の国」作詞当時の教科書に注目して、展示を行いました。

お客様の声

当館では、来館されたお客様に向けてアンケートを行いました。「信濃の国」にまつわる思い出と、紹介したい長野県の名所や人物、食べ物等について答えていただきました。

合計で 35 の回答をいただきましたが、印象的だったのは「父から浅井洌の話をよく聞いた。最後の学生だったらしい」というもので、「信濃の国」そのものだけでなく、作詞者である浅井洌も県民の心に刻まれているのだと感じました。

紹介したい長野県の魅力で圧倒的に多かったのは「松本城」でした。やはり「長野県の有名所といえば松本城」という意識を持たれている方が多いようです。そのほか県の特産品に関する回答も多くありました。



アンケート掲示板

信州大学附属図書館との連携事業

本特別展では、信州大学附属図書館と連携事業を行いました。附属図書館では、信州大学附属長野小学校の校歌として歌われる「信濃の国」に焦点をあてた展示を行っていました。連携事業の一環として、附属図書館で「信濃の国」に対する疑問を募集して、それに担当学芸員がお答えしました。4 つあった質問のなかで、「時代を経て人の価値観や感じ方が変わっているのに、明治時代に作られた「信濃の国」を県歌として歌い続けてよいものか」という意見もいただきました。

反響と所感

本特別展では、約 2 万人の方が来館され、多くの方々から反響がありました。

記念講演会では約 50 名の方にご参加いただき、展示解説の依頼も数多くありました（市内小学校から 3 回、信州大学から 2 回）。講演会では「群馬の上毛かるたも県民なら暗唱できると思うが、「信濃の国」とどちらが熱の入りがあるか」という

質問がありました。群馬県出身の私にとってはまさに灯台下暗しで、全く意識していませんでした。歌というジャンルの中で見れば



市内小中学生への展示解説

「信濃の国」以外に、ここまで地域に根差した県歌は無いと思います。ただ、ジャンルを取り払えば、上毛かるたのように、「信濃の国」に似たものが地域に眠っているのではないかと気づかされました。

話が少し前後してしまいましたが、開催に向けて調査をする中で、大岩家（浅井洌実家）の現在の当主、大岩隆氏からお話をうかがいました。大岩家は、主である戸田家が愛知県にいた頃から、祐筆を務めていた家柄であったことや、松本城所蔵の浅井洌の資料（明治時代、浅井洌が松本藩校崇教館を調査した際の調査書）について教えていただきました。

また、市内在住の個人の方から、「信濃の国」の展示をするなら、ということで資料を寄託していただきました。縦 170cm、横 360cm の屏風で、浅井洌直筆の「信濃の国」が書かれています。もちろん本特別展でも展示し、多くの方が足を止めてご覧になっていました。



屏風「信濃の国」 大正5年（1916）

最後になりますが、これまで述べてきた、お客様からの質問・意見から、改めて「信濃の国」が多くの人に愛されていることが分かりました。また、本特別展を通して、新たに気付かされた課題（「信濃の国」と上毛かるたの比較など）については、今後も調査・研究を進めていきたいと思っています。

（松本市立博物館 学芸員 / 伊藤雄太）

松本高等学校開校100年について

平成31年(2019)は、松本高等学校(以下、「松高」と表記)が開校して100年の年になります。松高は大正8年(1919)に開校し、戦後の学制改革により、昭和25年(1950)の卒業式を最後に閉校となりました。昭和24年(1949)に信州大学文理学部が、松高の校地・校舎を継承して誕生し、松高はしばらく信州大学文理学部の学生と同居していました。しかし、昭和25年(1950)の松高閉校後は、信州大学の校地・校舎として使われていました。

その後昭和54年(1979)に跡地が「あがたの森公園」として、残された建物は「あがたの森文化会館」としてオープンし、現在も市民の方々に親しまれています。

あがたの森文化会館の講堂では、毎年、寮歌祭や夏期教育セミナー等旧制高校の伝統を引き継いだイベントが開催されています。寮歌祭では、旧制高校の学生が当時作った寮歌を、旧制高校OBのみなさんが、3時間以上かけて歌っています。夏期教育セミナーでは、遠方からも旧制高校OBの方がいらっしゃったり、貴重なお話をさせていただいたりしています。

す。昨年は、記念イベントにて旧制高校時代の「教養」について当時の様子と共にご紹介いただきました。夏期教育セミナー1日目終了後に開催される懇親会にもご参加いただき、夜遅くまで旧制高校時代の思い出についてお話しいただきました。90歳になられる方々ばかりですが、みなさんとてもお元気です。今年は、講堂の耐震工事のため、寮歌祭は勤労者福祉センターにて、夏期教育セミナーはあがたの森文化会館校舎にて開催予定です。また、以上のイベントに加え松高開校100年を記念して、今年の3月より順に企画展を行う予定です。どうぞご期待ください。

(旧制高等学校記念館 学芸員/石原花梨)

みゅーじあむショップ通信

松高開校100年を記念して、グッズを作成し旧制高等学校記念館のミュージアムショップにて販売しています。旧制高校生をモチーフにした通称「パンカラ君」のトートバックとマグカップです。お立ち寄り際にはぜひお買い求めください。



開校100年記念 トートバック

側面

開校100年記念
マグカップ 正面

博物館 TOPICS

あめ市歴史展示「絵図にみるあめ市」

「市神祭之図」(原本所蔵:宮澤辰彦氏)は、江戸の絵師・管縉斎によって天保6年(1835)に描かれたとされています。これは、あめ市のハイライトである神輿渡御の場面を描いた絵巻です。深志神社を出発し市神様の神輿を中心に、本町をめざす盛大な行列が描かれています。この行列には多くの神様が登場します。ここでは、その神様について紹介します。

市神様

あめ市の主役である市神様とは、深志神社の境内にある市神社に祀られている「事代主命」のことで、事代主命は、大国主命の子であり、出雲神話に出てくる国譲りに際して、父に国土の献上を勧めた神として知られています。また、釣り好きの神様としても知られ、豊漁祈願の御利益があり、えびす神を擬した姿だとされています。商売繁盛・金運などのご利益もあり、商人の信仰がとて厚い神様です。

おかめ様

本町3丁目の行列では、大箕に掛けられたおかめ様の面を担いでいます。この面は、おかめ様・お多福様などと呼ばれますが、皆「天宇受売命」という神様のことで、天宇受売



市神祭之図一部(おかめ様)

命は、日本神話の天の岩戸に登場する神楽舞の名手で、天照大神を岩戸から呼び戻した功労者です。芸事の上達・成就祈願などのご利益があります。また、絵巻の中では、福をかき集めるといわれる箕の中に掛けられており、縁起物として信仰されていた様子が見て取れます。

猿田彦命

本町2丁目の行列の先頭を歩く、天狗の面を付け高下駄をはき、大戈を持った人物が「猿田彦命」です。猿田彦命は、天照大神の孫の瓊瓊杵尊が地上へ降り立つ際の案内役をした神として神話に登場しています。また、道開きの神としても知られています。絵巻では、市神様の神輿の先頭をきって道を切り開く神様として描かれています。



市神祭之図一部
(猿田彦命)

今回のあめ市歴史展示では、絵図を使い当時のあめ市の様子や、城下町の繁栄について紹介します。ぜひご来館下さい。

(松本市時計博物館 学芸員/原澤知也)

あめ市歴史展示「絵図にみるあめ市」

[会 期] 1月4日(金)～1月27日(日)

※月曜休館、午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

[会 場] 松本市時計博物館 3階企画展示室

[料 金] 無料 (1・2階常設展は通常観覧料)

松本市立博物館は 松本城新春祝賀式に合わせ 臨時開館します

恒例となりました、「宝船 七福神と干支
ピンバッジ」や、市立博物館オリジナル福
袋の販売をいたします。

また、松本まるごと博物館友の会では、
縁起だるまの販売や招福干支根付の無料
配布（なくなり次第終了）を行います。

日時 1月3日（木）
午前10時～午後3時30分
（最終入館は午後3時）

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

城下町松本のにぎわい2 「小笠原家弓馬故実書公開・新収蔵展」

小笠原家の歴史や松本と
の関わりを踏まえながら、当
館が今年度取得した小笠原
家の弓馬に関する故実書を
紹介します。



弓馬故実書

会期 2月17日（日）まで
年末年始休館
会場 松本市立博物館2階
特別展示室
料金 通常観覧料
（大人200円 小・中学生100円）

講演会「武家故実と小笠原氏」

「小笠原家弓馬故実書公開・新収蔵展」をより深く理
解するための記念講演会です。

日時 1月20日（日）午後1時30分～3時
会場 松本市立博物館2階 講堂
料金 通常観覧料
（大人200円、小・中学生100円）
定員 60名
講師 後藤芳孝氏
（松本城管理事務所研究専門員）
申込み 1月7日（月）午前9時から電話で受付開始
問合せ 松本市立博物館へ

はかり資料館から ☎0263-36-1191

企画展「中町今昔物語展」

明治～昭和の中町界隈の様子を写真パネルや実物
資料で紹介いたします。

会場 松本市はかり資料館
会期 1月4日（金）～2月11日（月・祝）
※月曜休館（祝日の場合はその翌日）
料金 通常観覧料
（大人200円、中学生以下無料）



明治時代の中町通り

※あめ市で中町通りが歩
行者天国となる1月13
日（日）は無料開館し、
路上で松本だるまの販
売をします。

歴史の里から ☎0263-47-4515

パネル展「歴史の里 2018」

2018年の歴史の里の活動や四季折々の風景などを
写真パネルで紹介いたします。

会期 1月19日（土）～3月31日（日）
※月曜休館（祝日の場合はその翌日）
会場 歴史の里 展示・休憩棟
料金 通常観覧料
（大人400円、中学生以下無料）
問合せ 歴史の里へ

松本でまり体験講座

松本を代表する民芸品「松本でまり」（1号まり程度）
を作ります。

日時 2月24日（日）午前9時30分～午後3時頃
（お昼を挟んでの講座となります）
会場 歴史の里
料金 1,000円
対象 大人
定員 10名（先着順）
講師 鈴木智恵子氏
持ち物 昼食、裁縫道具（まち針・糸切りばさみ）
申込み 2月5日（火）午前9時から電話で受付開始
問合せ 歴史の里へ

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

内田のおんべ祭り見学会

重要文化財馬場家住宅
周辺で行われている「内田
のおんべ祭り」（市重要無
形民俗文化財指定）を見
学します。

日時 1月14日（祝・月）
正午～午後4時
場所 内田地区内 行程はすべて徒歩での移動
となります。
料金 500円
定員 10名
申込み 12月5日（水）午前9時から電話で受付開始
問合せ 馬場家住宅へ



昨年度のおんべ見学会の様子

企画展 松本の春みつけた! 2019 「古民家で楽しむひな祭り」

松本地方の伝統的な松
本押絵雛による雛飾りを、
江戸時代末期に建てられた
古民家の中で情景展示を
行います。

会期 3月1日（金）～
4月7日（日）
※月曜休館（祝日の場合はその翌日）
会場 重要文化財馬場家住宅
料金 通常観覧料
（大人300円、中学生以下無料）



押絵雛を見る子どもたち

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

百人一首教室

百人一首に親しみ、かるた取りの上達方法を学び
ます。

日時 1月5日・12日（土）午後1時～3時
会場 窪田空穂生家（窪田空穂記念館向かい側）
定員 各30人
料金 無料
講師 中本晶子氏/短大講師
申込み 窪田空穂記念館へ

冬季文化講座「冬日ざし」

窪田空穂の歌集『冬日ざし』から名付けた冬季文化
講座です。

日時 ①2月2日（土）、②9日（土）、③16日（土）、
④23日（土）
いずれも午後1時30分～3時
会場 窪田空穂生家（窪田空穂記念館向かい側）
定員 各50人
料金 各200円
講師 ①上條宏之氏/前長野県短期大学長
②畑英利氏/天体写真家
③青柳直良氏/郷土史家
④二本松泰子氏/長野県立大学准教授
内容 ①「空穂は女性をどのように評価していた
か」、②「日本人はなぜオーロラに憧れるの
か」、③「島本赤彦の教育精神」、④「鷹
狩と鷹匠について」
申込み 窪田空穂記念館へ

考古博物館から ☎0263-86-4710

八十二銀行ウインドギャラリー展 「古の暮らしを掘る」

八十二銀行松本営業部のウインドーギャラリースペース
をお借りして、考古資料から見てくる古（いにしえ）の
暮らしを紹介します。

会期 1月11日（金）～1月31日（木）
場所 八十二銀行松本営業部 ウインドーギャ
ラリー
料金 無料

速報展「発掘された松本 2018」

2018年に松本市内で行われた発掘調査について出
土品や写真でいち早くご紹介します。

会期 2月16日（土）～3月3日（日）
※月曜休館（祝日の場合はその翌日）
会場 時計博物館 3階企画展示室
料金 時計博物館の通常観覧料
（大人300円、小・中学生150円）

関連事業「発掘された松本 2018 ～松本 市遺跡発掘報告会～」

日時 2月23日（土）午後1時～午後4時30分
会場 Mウイング 6階ホール
料金 無料
申込み なし
問合せ 文化財課へ ☎0263-85-7064

あとがき

旧松高開校100年に向けて、旧制高校OBのみなさんとお話する機会が
増えました。みなさんとてもチャレンジ精神のある素敵な方ばかりで、
お話も面白く勉強になります。私も、みなさんのようにもっと色々なこ
とに挑戦していきたいと思います。 (K.I)

あなたと博物館 No.220

発行年月日/平成31年1月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL: <http://www.matsu-haku.com>
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.lg.jp



印刷 川越印刷株式会社